

第3学年 算数科学習指導案

1 単元 重さ (本時5/8)

2 本時の目標と授業後になりたい「みちガエル」の姿

< 目標 > 1kgの量感をもとに、身のまわりの物の重さを見当づけ、適切に秤を選択して測定することができる。(知識・技能)

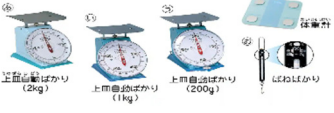

<みちガエル>身の回りのものの重さを予想し、量るものにあつた秤で量ることができる姿。

(活動 5 (1)、6 (1) の児童の様子より)

3 発言しようとする意識を高めるための取り組みについて

チームで量るものを分担して測定し、全員が活動に参加できるようにする。

4 展開

段階	子供の活動	教師支援 (㊸主体的に学び続ける手立て(㊹個に応じた指導)
つかむ (5)	<p>1 ランドセルやリコーダー、習字セットなど荷物を持った教師を見て、荷物の重さが3kgより重いか軽いかを予想する。</p> <p>2 問題意識をもつ。 (1) 荷物が多い日の持ち物を思い出す。 ・ランドセルやてさげバッグを持って来ているよ。 ・水筒や教科書も持って来ている。 (2) 重さの調べ方を考える。 ・秤を使うよ。</p>  <p>3 学習課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興味を引くことができるように教師が実際に荷物を身に付ける。 重さの量感が意識できるように1kgの重さを思い出すように促し、荷物が多い日は3kgを超えているのか問いかける。 ㊸知りたいと思う意欲が高まるように、終業式の日など荷物が多いときは何kgなのか調べる。 量るものを鍵盤ハーモニカ、リコーダー、歯みがきセット、シューズぶくろの四つに決める。 適切な秤でないと正しく測定することができないことを理解できるように、失敗例を実演する。 ばねばかりは200gより重い物を量るとすぐに壊れてしまうことを伝え、特に慎重に扱うように指示する。 秤の種類を板書しておく ㊸「どんな課題にしたいですか。」
見通す (2)	<p>はかるものにあつた秤をえらんで、ものの重さをはかりたい。</p> <p>4 になりたい「みちガエル」姿と見通しをもつ。  身の回りのものの重さを予想し、量るものにあつた秤で量ることができる。 ・見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ㊸「何ができたらみちガエルかな。」
深める (33)	<p>① 1kgの量感をもとに重さを予想する。 ② どの秤を使うか理由とともに考える。 ③ チームごとに秤を選んで量る。</p> <p>5 一人で「まち・かんガエル」タイム。 (1) 学校に持ってくるものの重さを予想し、どの秤を使うか理由も含めて考える。 ・鍵盤ハーモニカは1kgを超えていると思うし、上皿に乗るから2kgの秤ではかるよ。 ・歯みがきセットは100gくらいかな。 ・いつもぶら下げているからばねばかりを使う。</p> <p>6 みんなで「まち・かんガエル」タイム。 (1) チームで学校に持ってくるものの重さを調べる。 ・鍵盤ハーモニカは1kg 300gくらいだった。 ・リコーダーは130gだった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 量るものの重さや形に着目するよう指示する。 「今からまち・かんガエルタイムです。」 ㊹予想が難しい児童のために、前時に作った砂1kgを基準となる重さとして提示する。
振り返る (5)	<p>(2) チームで一人、前に出てきて、歯みがきセット測定する。 ・歯磨きセットはいつもぶら下げているからばねばかりを使った。 ・上皿に乗せられるから上皿ばかりの200gを使</p>	<p>・学習の参加度を高め、自信をもてるようにするために、チームで分担し、全員が量る活動を行うようにする。</p> <p>・どの秤を使えばよいか分からないチームには1kgの砂と比べてどの秤が使えるかを考えるように指示する。</p>

<授業の山場>
 用途に応じて秤がつくられていることを理解し、適切な秤を選択することができるように、水の入った袋を提示し、ばねばかりでないとき量れない場合を考える。

ったよ。

7 <ふりカエルタイム>

- (1) 「みちガエル」になれたかを自己評価する。
- (2) 本時で学んだことや思ったことを発表する。

量るものに合った秤で量らないと正確に量れないことが分かった。

- ・量った荷物が合わせて3kgを超えているのか調べるために足し算を使うことを理解し、次の授業につなげられるようにする。

<まとめ>

量るものの重さや形を考えて秤を選ぶとよい。